

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

2011年3月期 決算報告

2011年5月13日
第一生命保険株式会社

第一生命

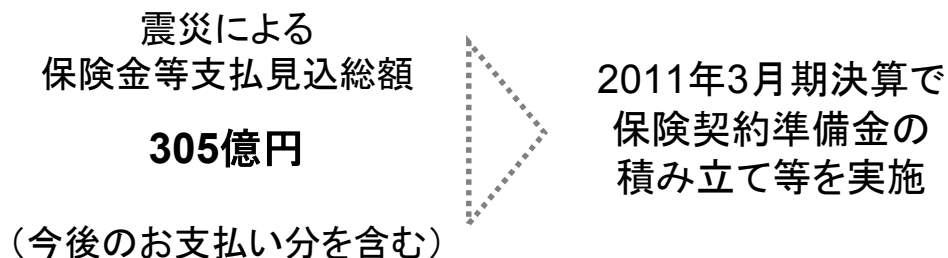
決算のポイント

- 東日本大震災に伴う保険金等支払見込総額は、305億円。また震災による株価下落の影響もあって、第4四半期に有価証券評価損1,104億円を計上。通期の連結当期純利益は191億円
- 中期経営計画で掲げた課題を着実に実行
 - ＜中核事業の競争力強化＞主力商品の販売好調により、第一生命単体の新契約高は前期比6.2%増加。解約失効率も大幅改善し、4.66%に
 - ＜成長分野＞新商品の販売好調により、第三分野に係る新契約年換算保険料は前期比16.7%増加。また、豪タワー社の完全子会社化を実施
 - ＜資本政策＞国内株式の削減、デュレーション長期化を目的とした責任準備金対応債券の購入は、計画通り進捗。また、今後の成長戦略に向けた資本確保等を目的として、米ドル建永久劣後債を発行(13億ドル)
- 2011年3月末のEVは、2兆4,403億円(前期末比3,960億円減少)

■ 当社保有契約高とシェア等を考慮した、震災による保険金等支払見込総額は305 億円

保険金等の支払見込

参考データ



(参考)
当社の保険金・給付金・年金支払総額⁽¹⁾: 1兆7,864億円
(2011年3月期実績)

- (1) 第一生命単体ベース
- (2) 2010年3月期の個人保険および個人年金に係る数値
- (3) 転換契約は「転換による増加」で、「転換による減少」を差し引かないグロス部分

(単位: 億円)

	東北3県 (岩手、宮城、福島)	
		全国に占める割合
当社の保有契約 ⁽¹⁾⁽²⁾	60,109	3.8%
当社の新契約+転換契約 ⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾	7,202	3.7%

根拠資料: インシュアランス生命保険統計号(平成22年版)

第一生命

連結主要業績

- 連結経常収益は、第一フロンティア生命で販売が急増した前年からの反動もあり前期比14%減少し、4兆5,715億円
- 連結経常利益は、有価証券評価損の計上などが影響し前期比57%減少し、811億円

(億円)

	10/3期	11/3期 (a)	前期比	
			△増	%
経常収益	52,940	45,715	△7,224	△14%
第一生命単体	43,315	43,084	△230	△1%
経常利益	1,882	811	△1,070	△57%
第一生命単体	1,936	789	△1,147	△59%
当期純利益 ⁽¹⁾	556	191	△365	△66%
第一生命単体	608	169	△438	△72%

<参考>

2010/5/14 発表予想(b)	達成率(a/b)
	43,260
39,720	108%
1,950	42%
2,090	38%
500	38%
620	27%

(1) 第一生命は10/3期において相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しています。

連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	10/3期	11/3期	増減
経常収益	52,940	45,715	△7,224
保険料等収入	37,042	33,124	△3,918
資産運用収益	12,472	9,227	△3,244
うち利息・配当金等収入	7,084	6,987	△97
うち有価証券売却益	2,427	2,123	△303
うち金融派生商品収益	-	92	+92
うち特別勘定資産運用益	2,896	-	△2,896
その他経常収益	3,425	3,363	△62
経常費用	51,057	44,903	△6,154
うち保険金等支払金	26,569	27,113	+544
うち責任準備金等繰入額	11,942	4,664	△7,277
うち資産運用費用	3,403	4,446	+1,043
うち有価証券売却損	2,078	1,209	△869
うち有価証券評価損	78	1,796	+1,717
うち特別勘定資産運用損	-	401	+401
うち事業費	4,758	4,348	△409
経常利益	1,882	811	△1,070
特別損益 ⁽¹⁾	△237	284	+522
契約者配当準備金繰入額 ⁽¹⁾	925	785	△140
税金等調整前当期純利益 ⁽²⁾	719	311	△407
法人税等合計	170	121	△48
少数株主利益(△は損失)	△7	△0	+6
当期純利益 ⁽²⁾	556	191	△365

(1) 10/3期の特別損失には契約者配当引当金繰入額925億円が含まれていますが、本表では当該金額を契約者配当準備金繰入額に記載し、特別損益からは除いています。

(2) 第一生命は10/3期において相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しています。

(3) 10/4始のその他包括利益累計額には評価・換算差額等合計を記載しています。

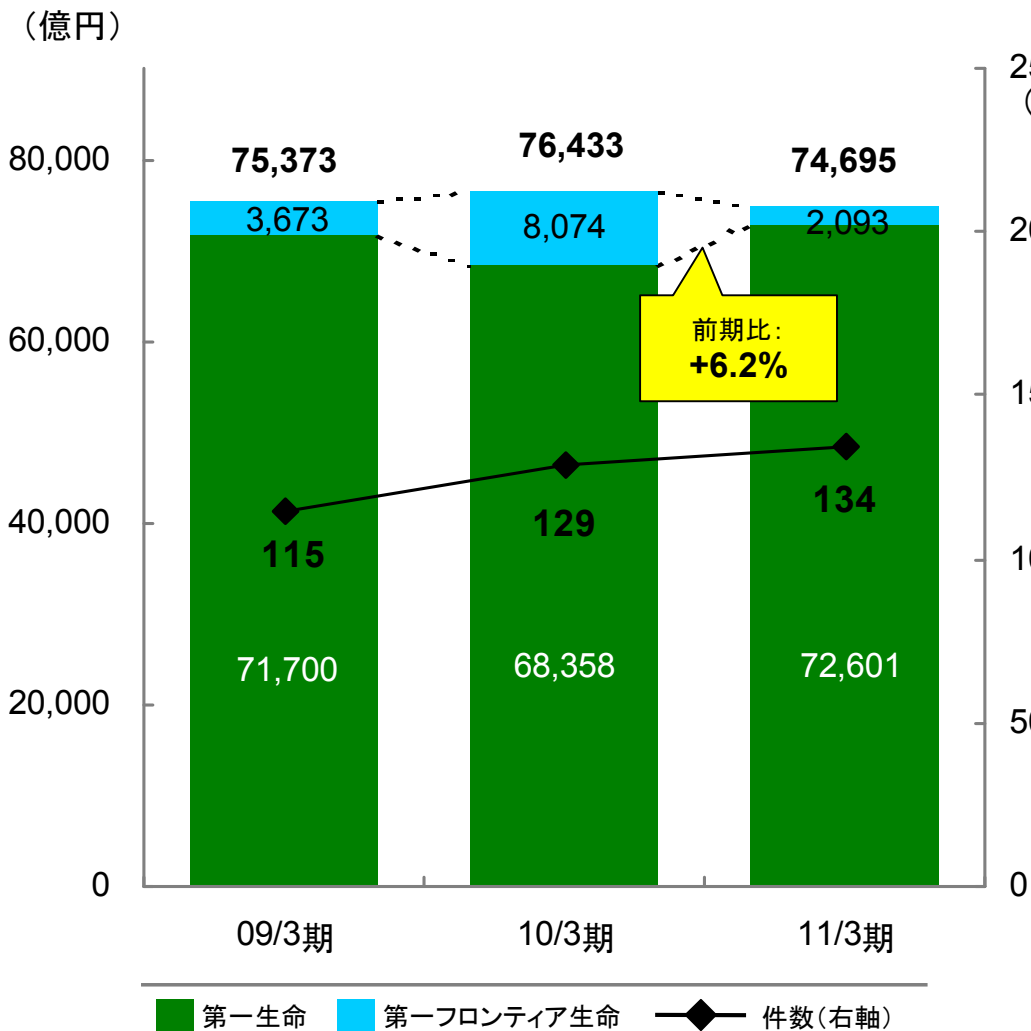
連結貸借対照表(要約)

(億円)

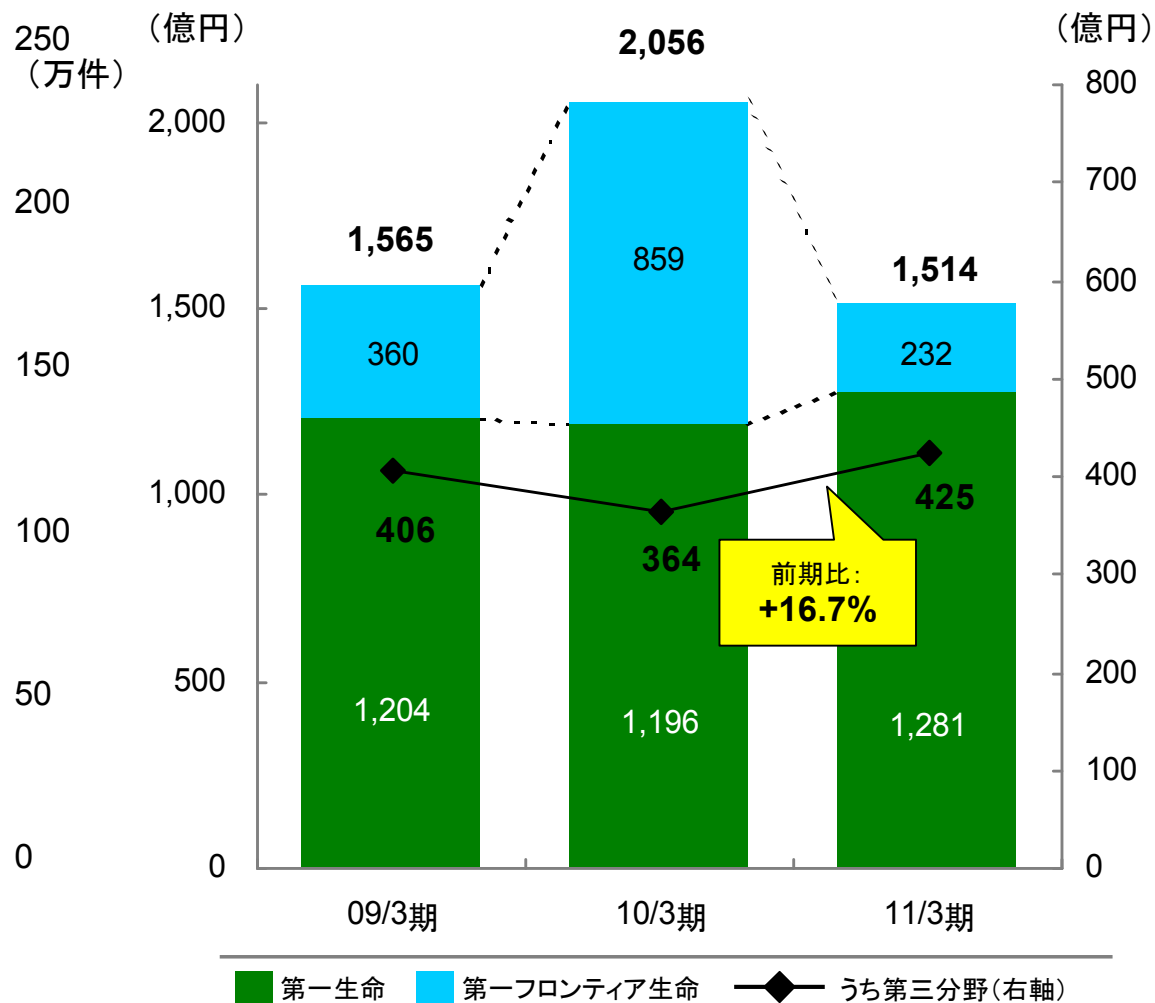
	10/4始	11/3末	増減
資産の部合計	321,042	322,978	+1,936
うち現預金・コール	4,373	5,019	+645
うち買入金銭債権	2,898	2,911	+12
うち有価証券	251,473	255,977	+4,503
うち貸付金	38,349	36,279	△2,069
うち有形固定資産	12,440	12,961	+520
うち繰延税金資産	3,395	4,772	+1,376
負債の部合計	311,400	315,660	+4,259
うち保険契約準備金	292,047	296,419	+4,372
うち責任準備金	286,326	290,394	+4,067
うち退職給付引当金	4,114	4,200	+86
うち価格変動準備金	1,155	805	△349
純資産の部合計	9,641	7,318	△2,323
うち株主資本合計	5,587	5,489	△97
うちその他の包括利益累計額合計 ⁽³⁾	3,936	1,711	△2,225
うちその他有価証券評価差額金	4,622	2,388	△2,234
うち土地再評価差額金	△635	△651	△16

新契約動向(個人保険・個人年金保険)

新契約高⁽¹⁾



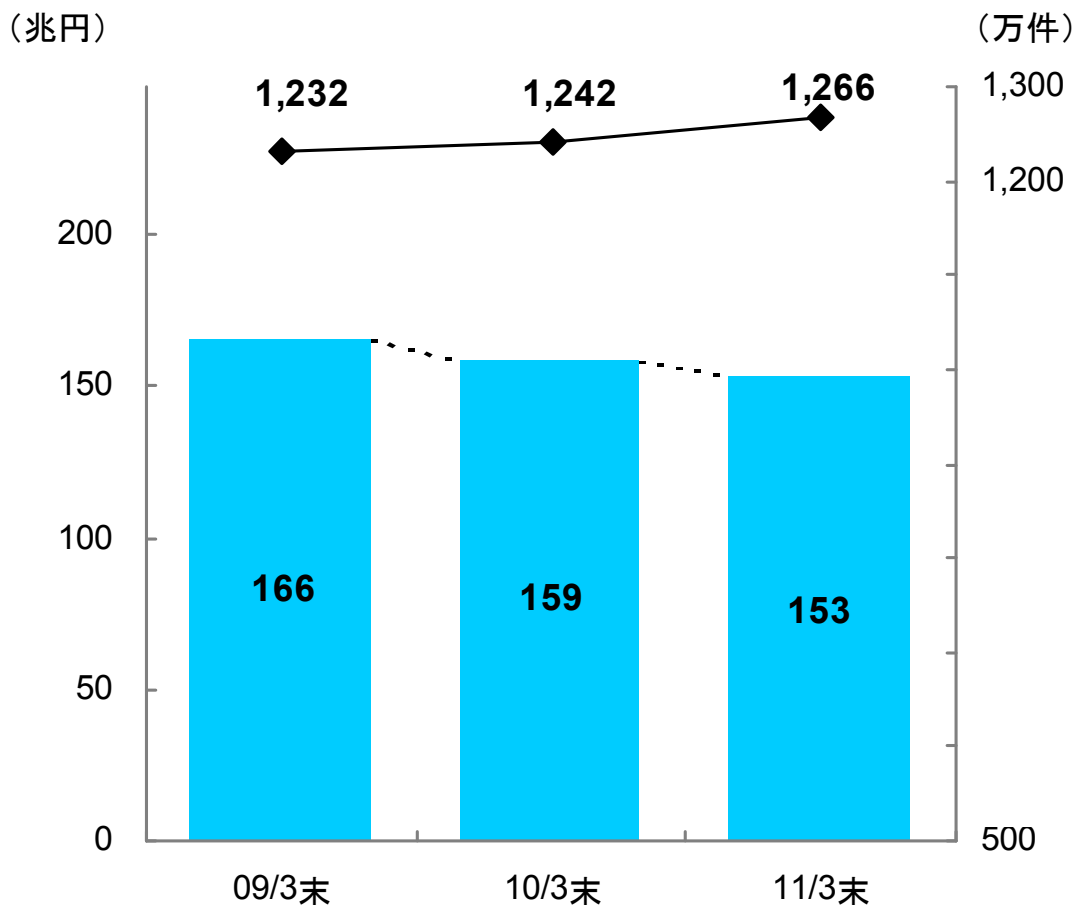
新契約年換算保険料⁽¹⁾



(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

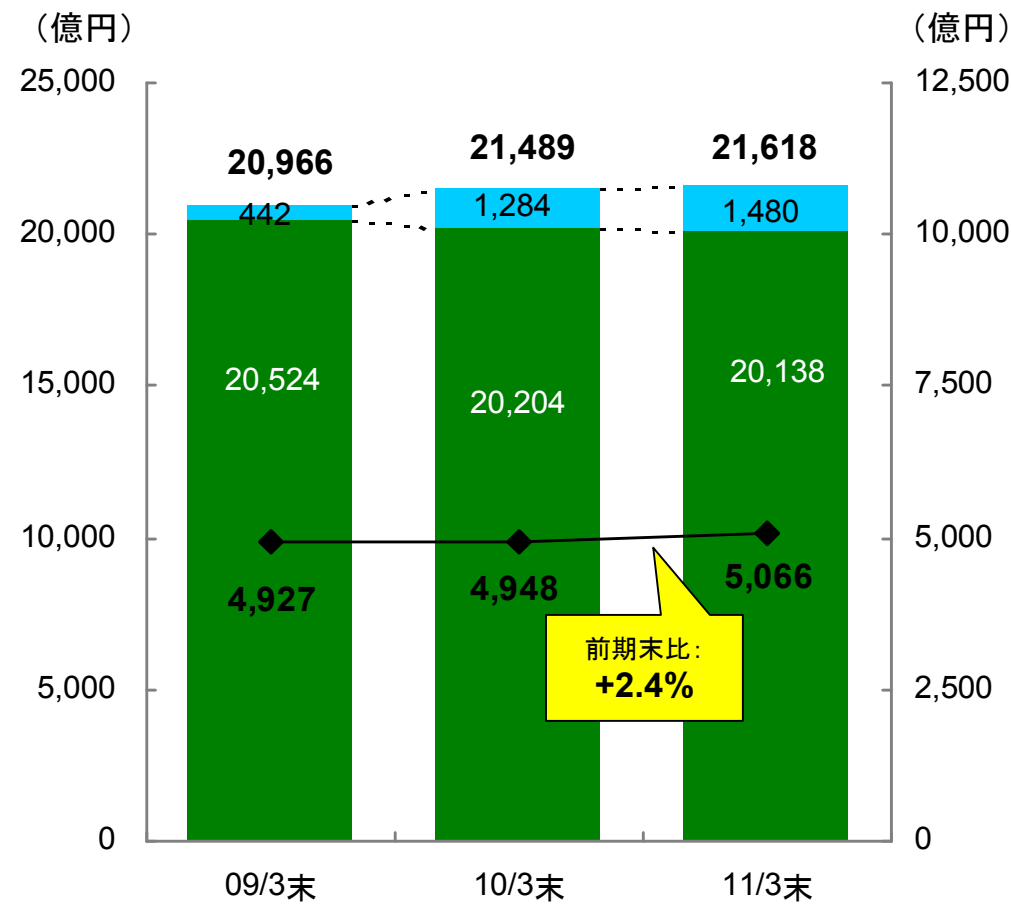
保有契約動向(個人保険・個人年金保険)

保有契約高(1)



金額 件数(右軸)

保有契約年換算保険料(1)



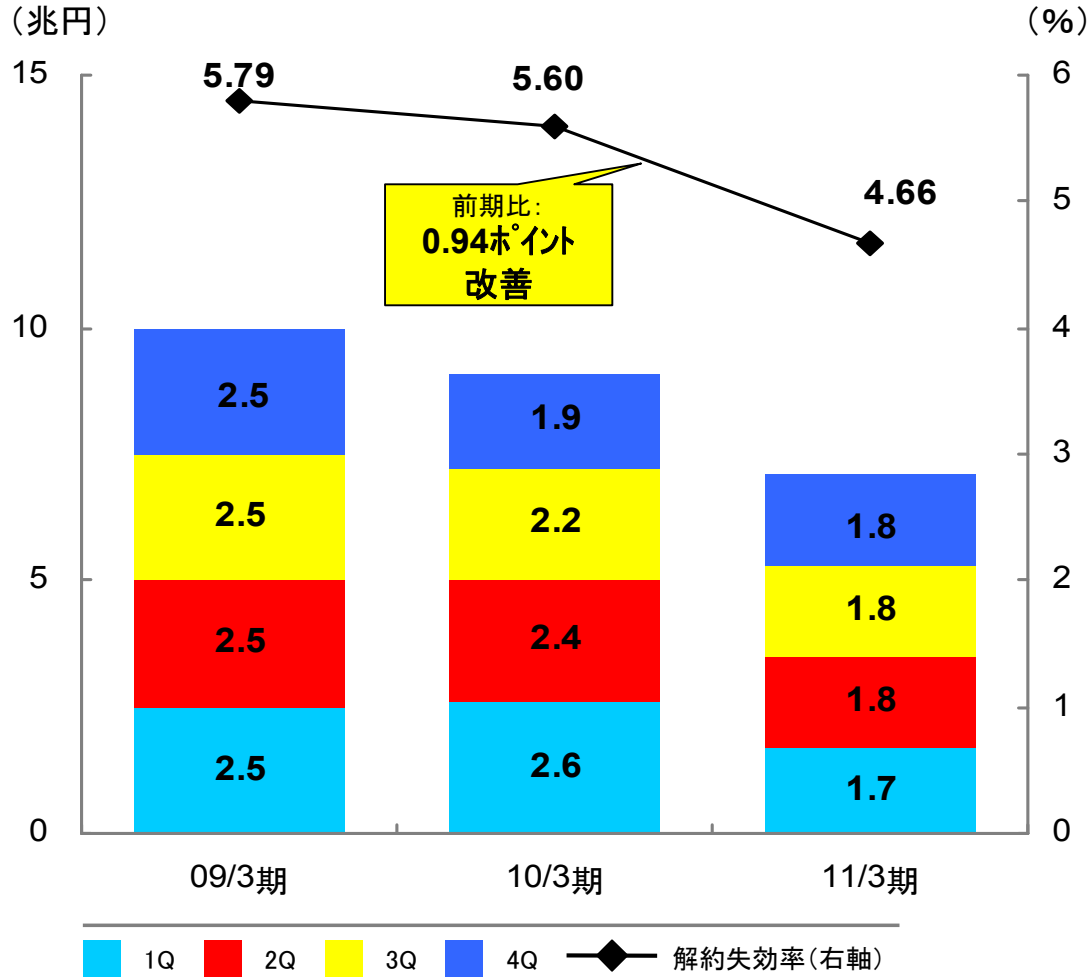
第一生命 第一フロンティア生命 うち第三分野(右軸)

(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

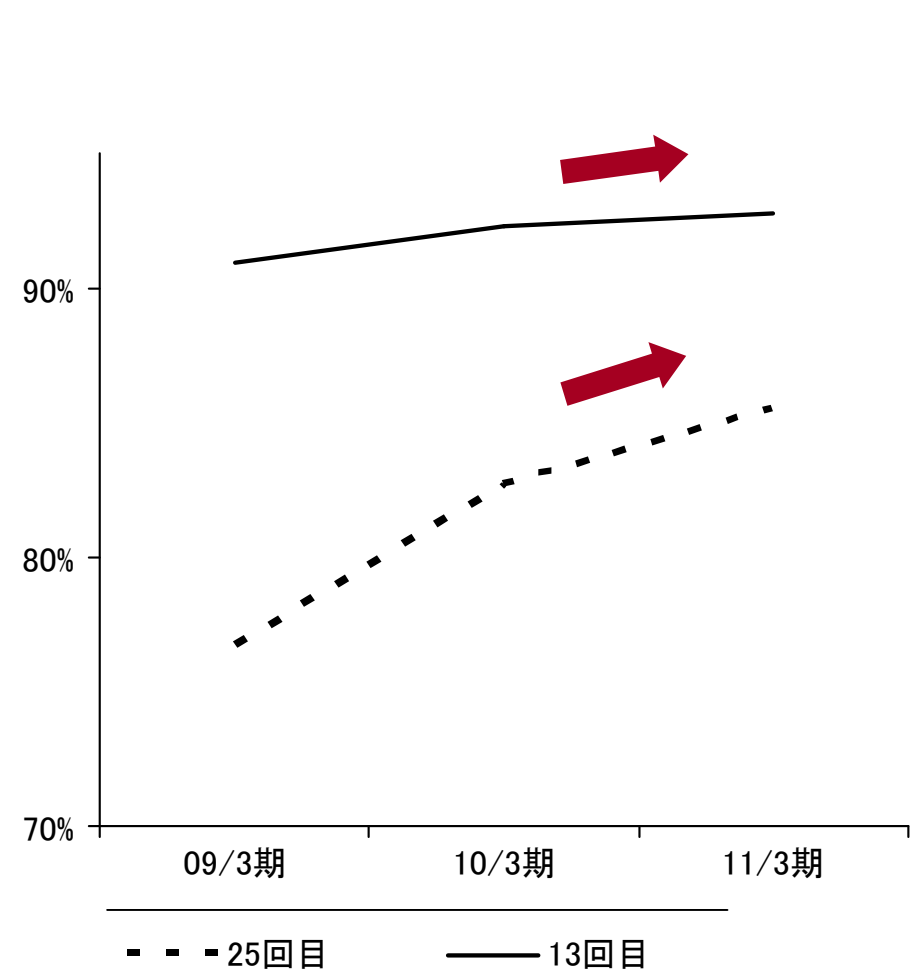
第一生命

解約失効高、継続率

解約失効高(個人保険・個人年金保険)⁽¹⁾

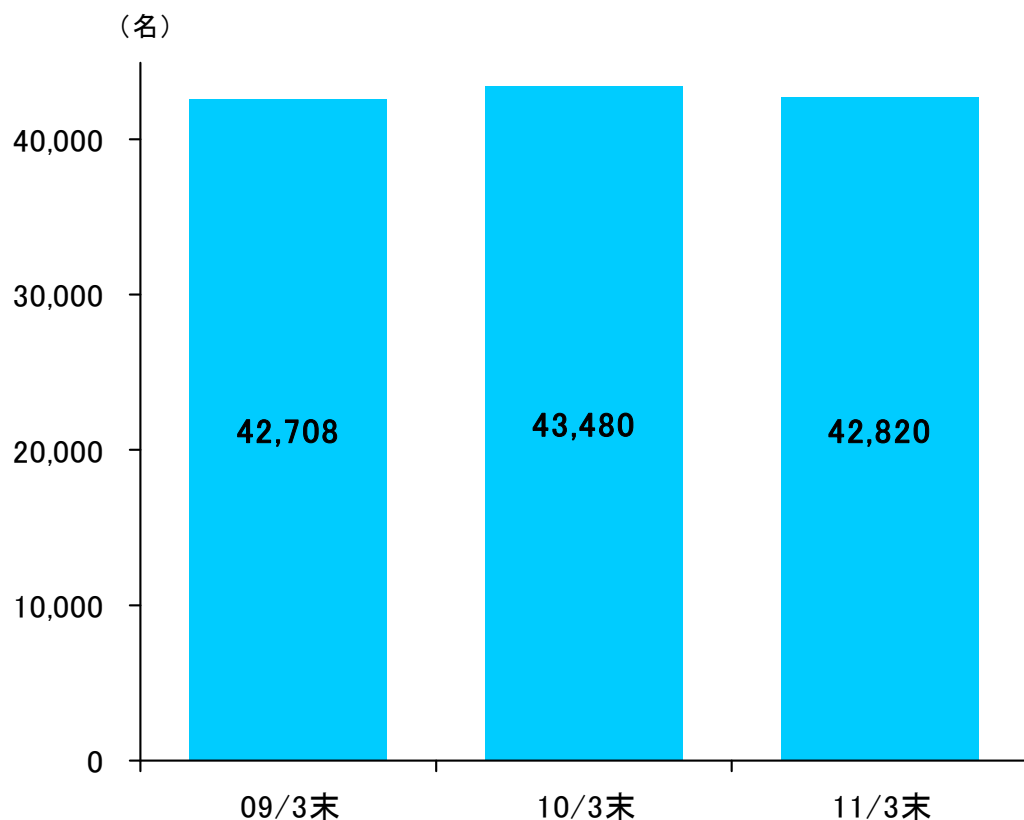


継続率⁽¹⁾

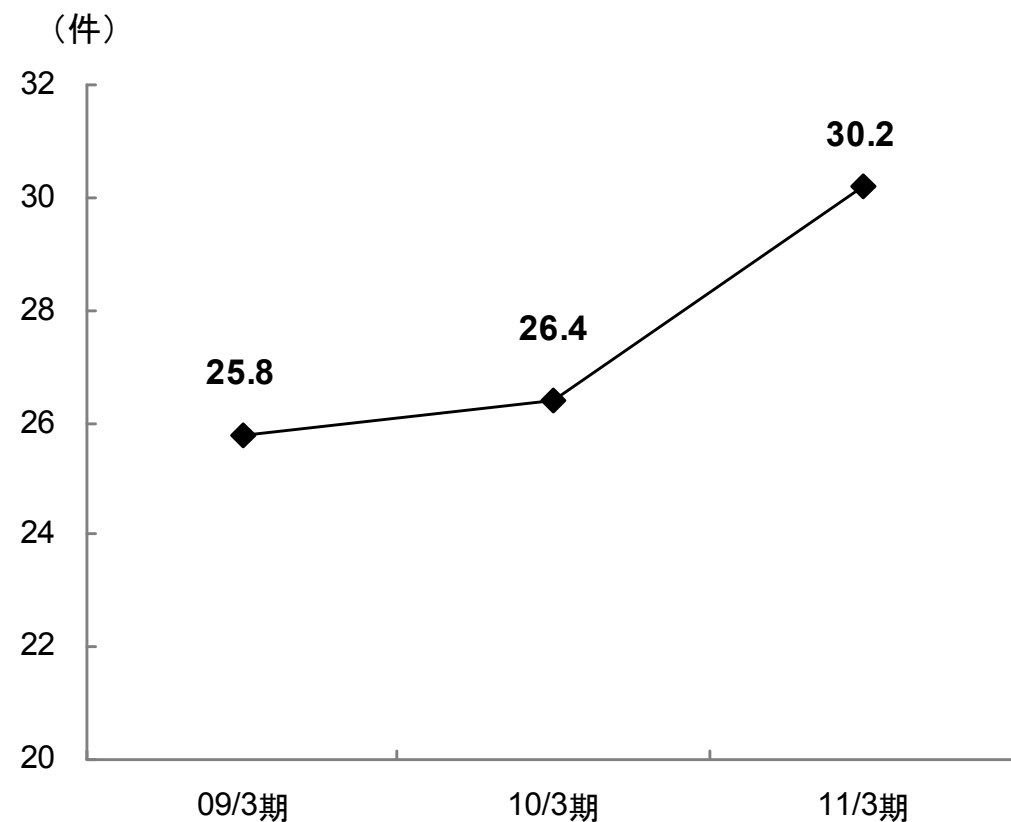


(1) 第一生命単体ベース

第一生命の営業職員数⁽¹⁾

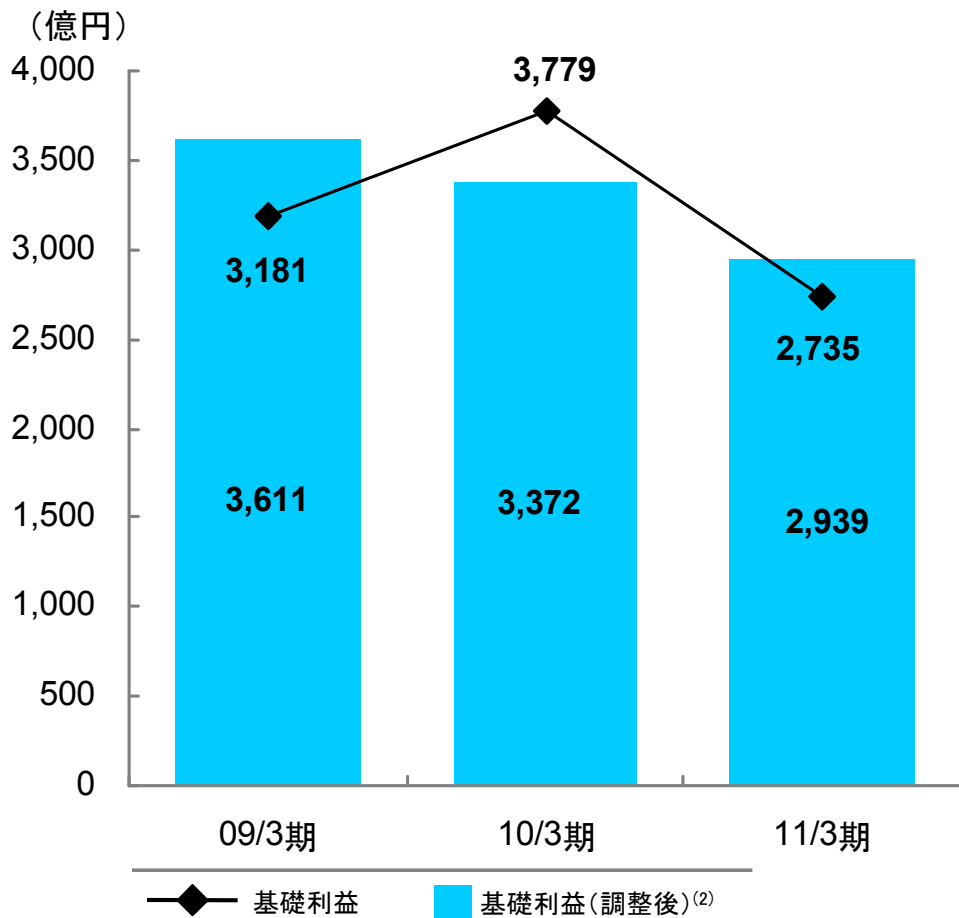


営業職員一人あたり新契約件数⁽¹⁾⁽²⁾

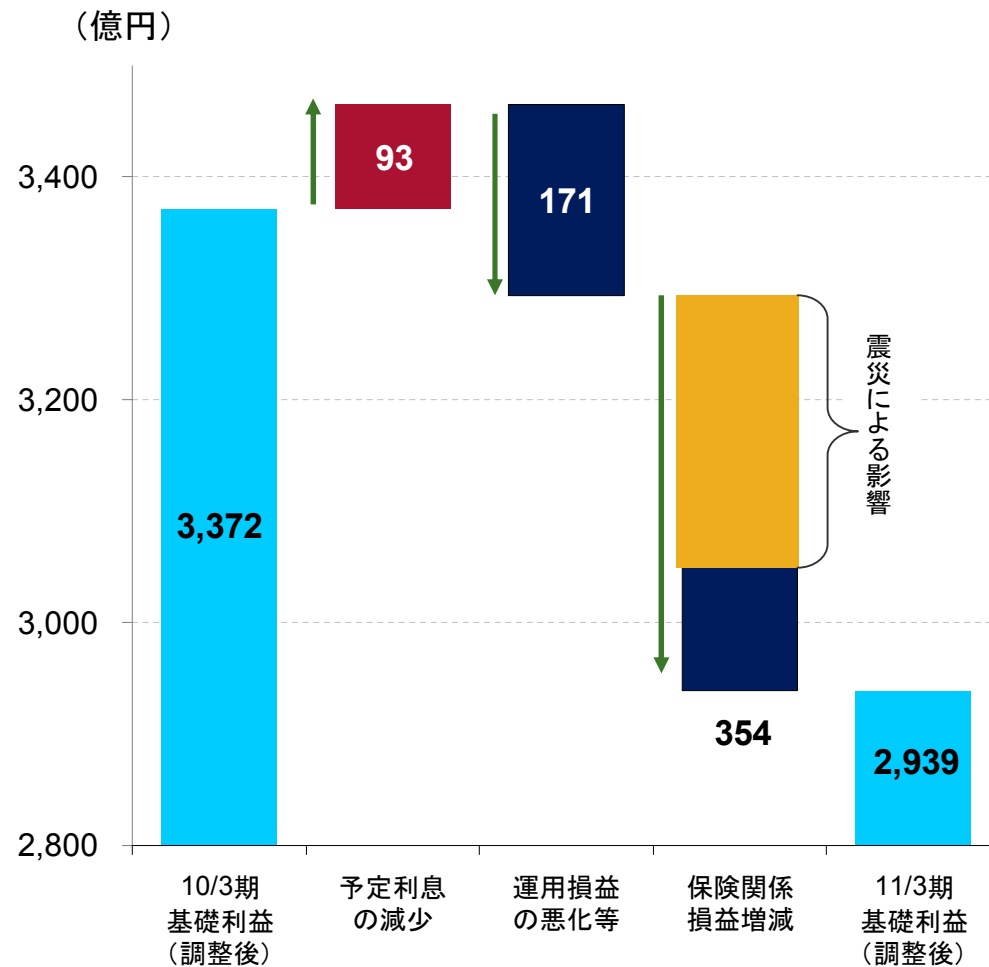


(1) 営業職員については、当社と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
(2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値(期初・期末の数値より算出)を分母として計算しています。

基礎利益⁽¹⁾



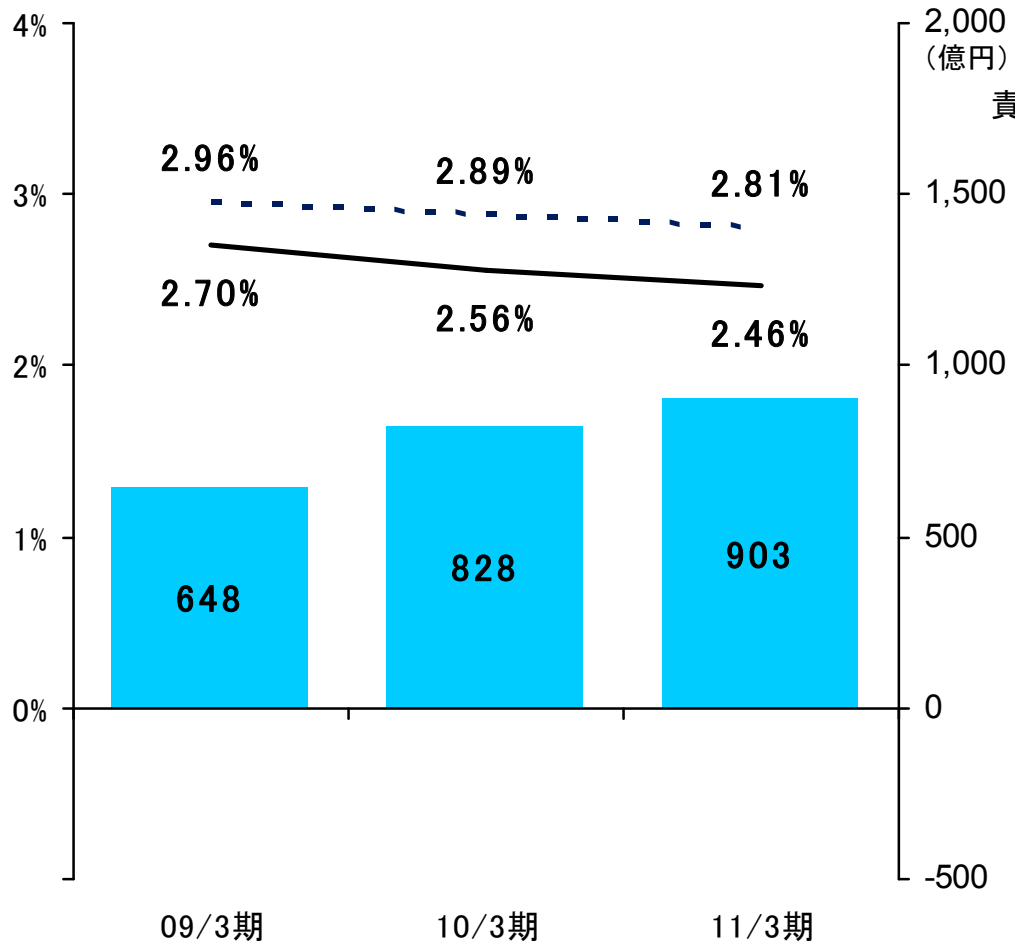
基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾⁽²⁾



(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

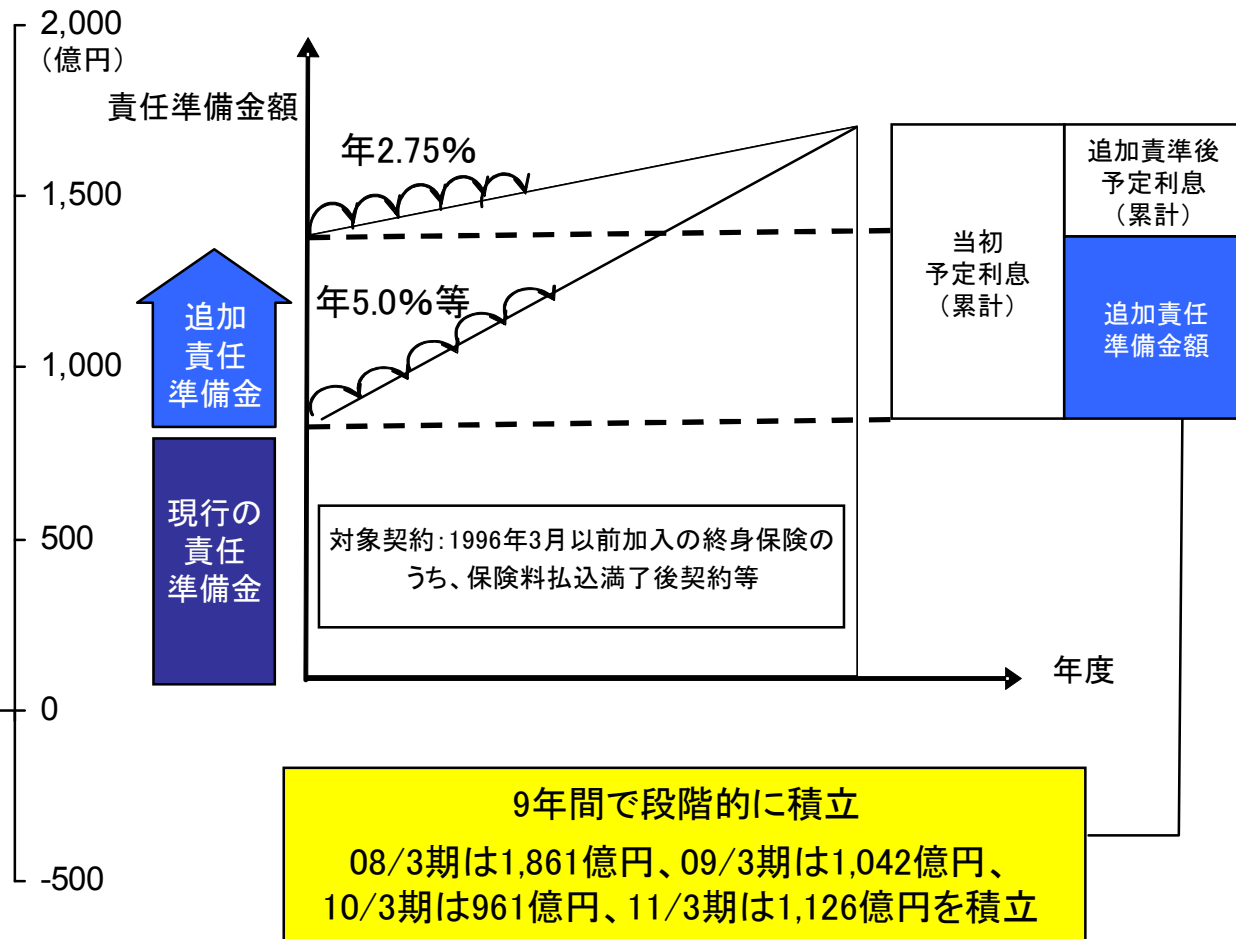
予定利率・基礎利回り・逆ざや⁽¹⁾



■ 逆ざや額 平均予定利率 — 基礎利益上の運用収支等の利回り

(1) 第一生命単体ベース

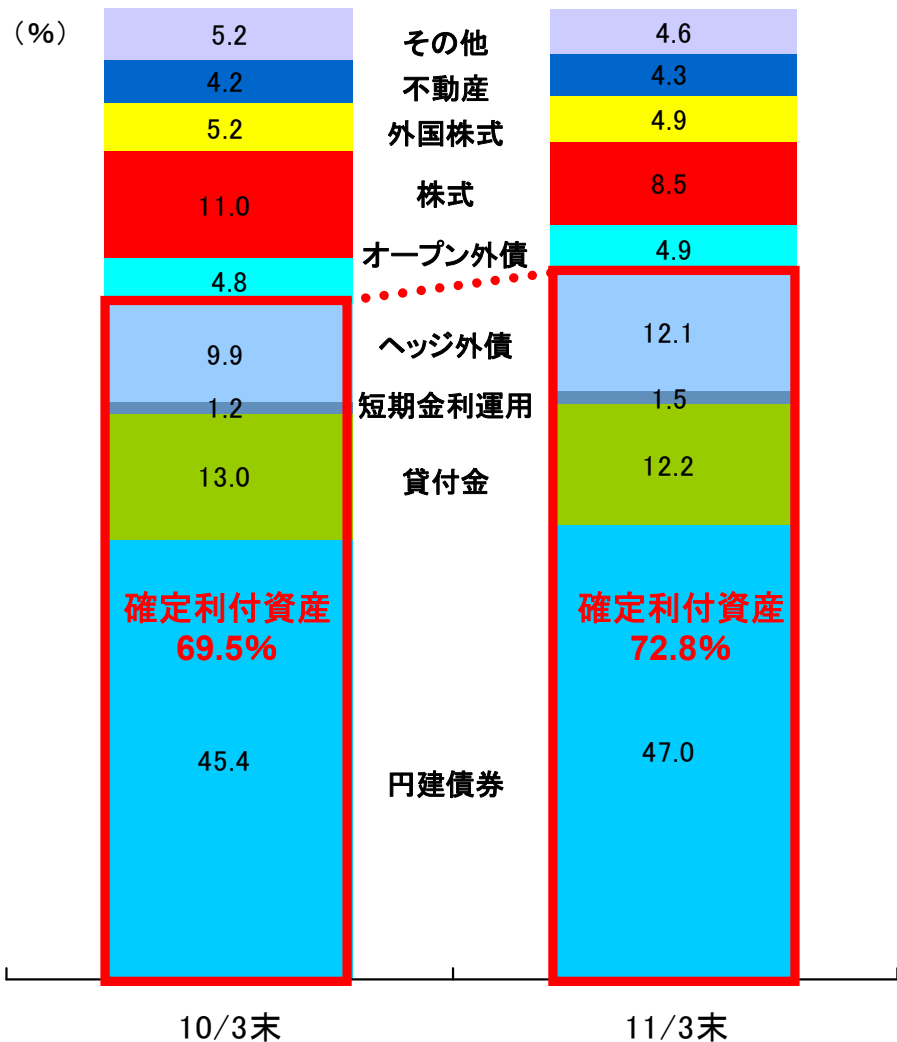
追加責任準備金の積立てのイメージ⁽¹⁾



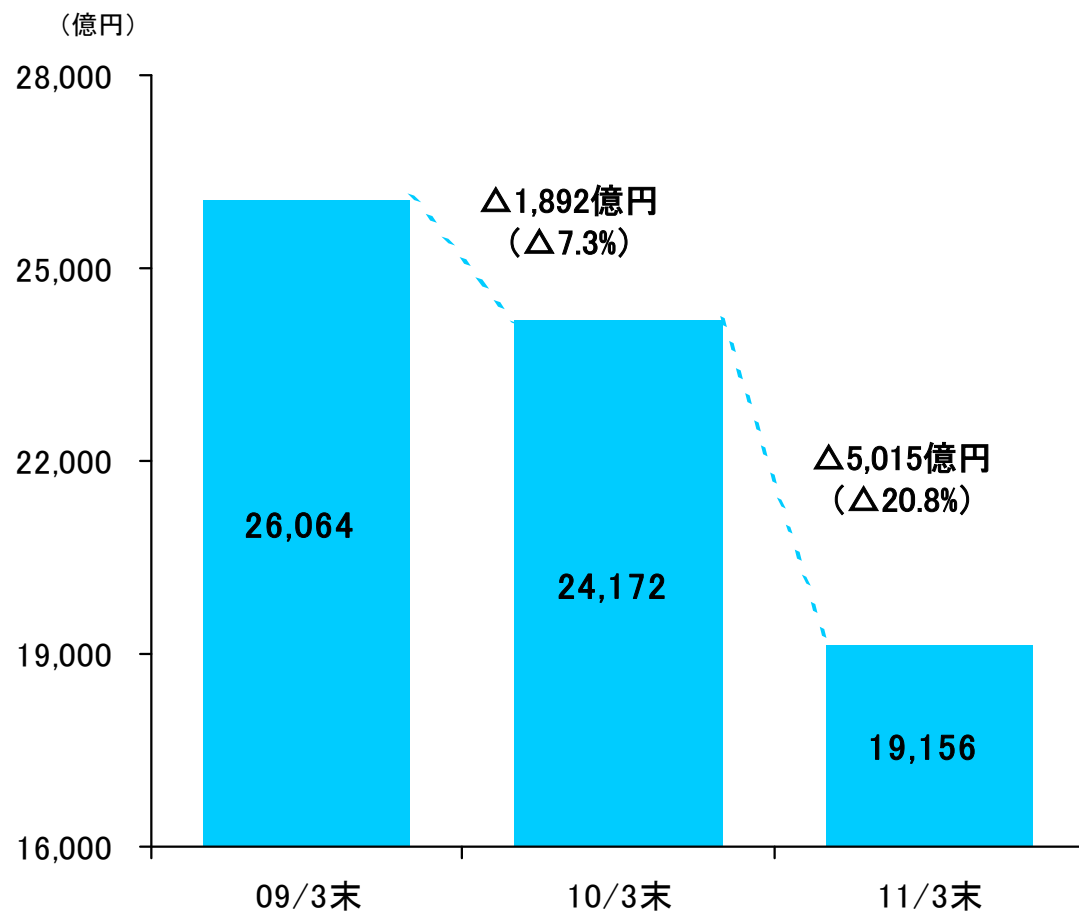
第一生命

一般勘定資産の状況

資産の構成(一般勘定)⁽¹⁾



国内株式の簿価⁽¹⁾⁽²⁾



(1) 第一生命単体ベース

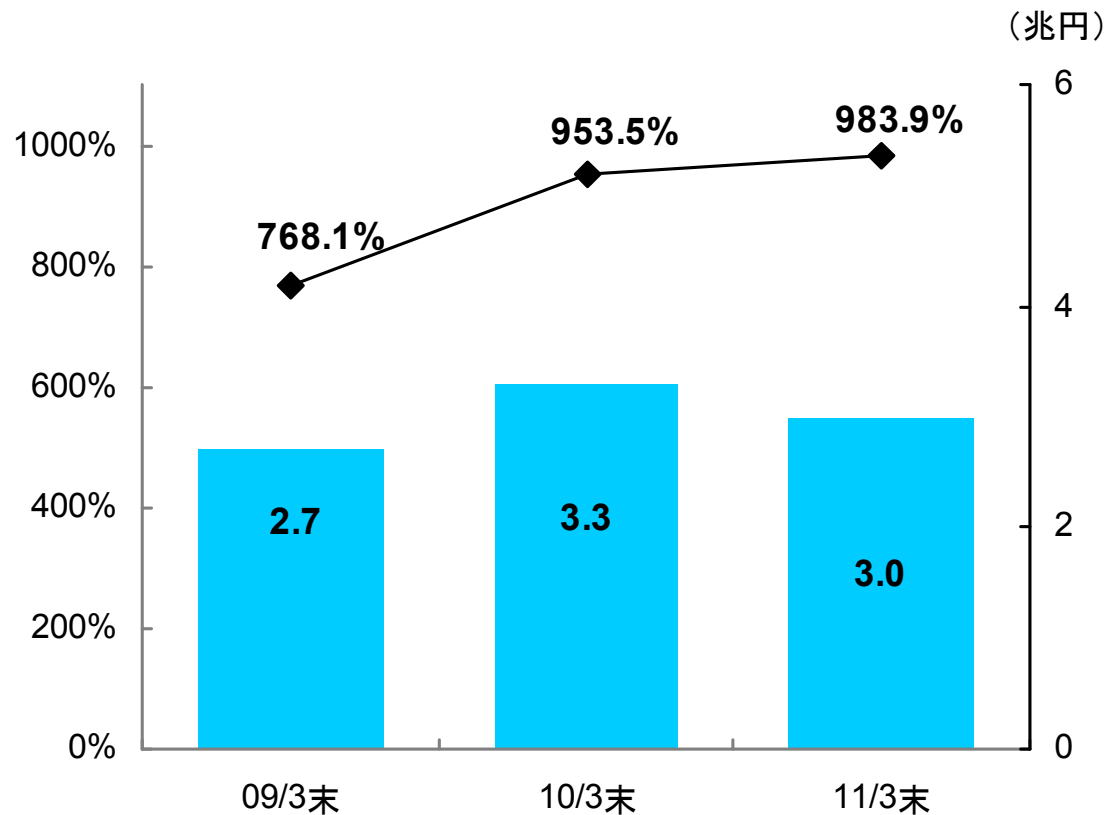
(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

含み損益(一般勘定)⁽¹⁾

(億円)

	10/3末	11/3末	増減
有価証券	8,514	6,141	△2,373
国内債券	2,657	3,838	+1,180
国内株式	5,225	3,056	△2,169
外国証券	598	△804	△1,403
不動産	908	205	△703
その他共計	9,420	6,392	△3,028

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額⁽¹⁾



◆ ソルベンシー・マージン比率 ■ 実質純資産(右軸)

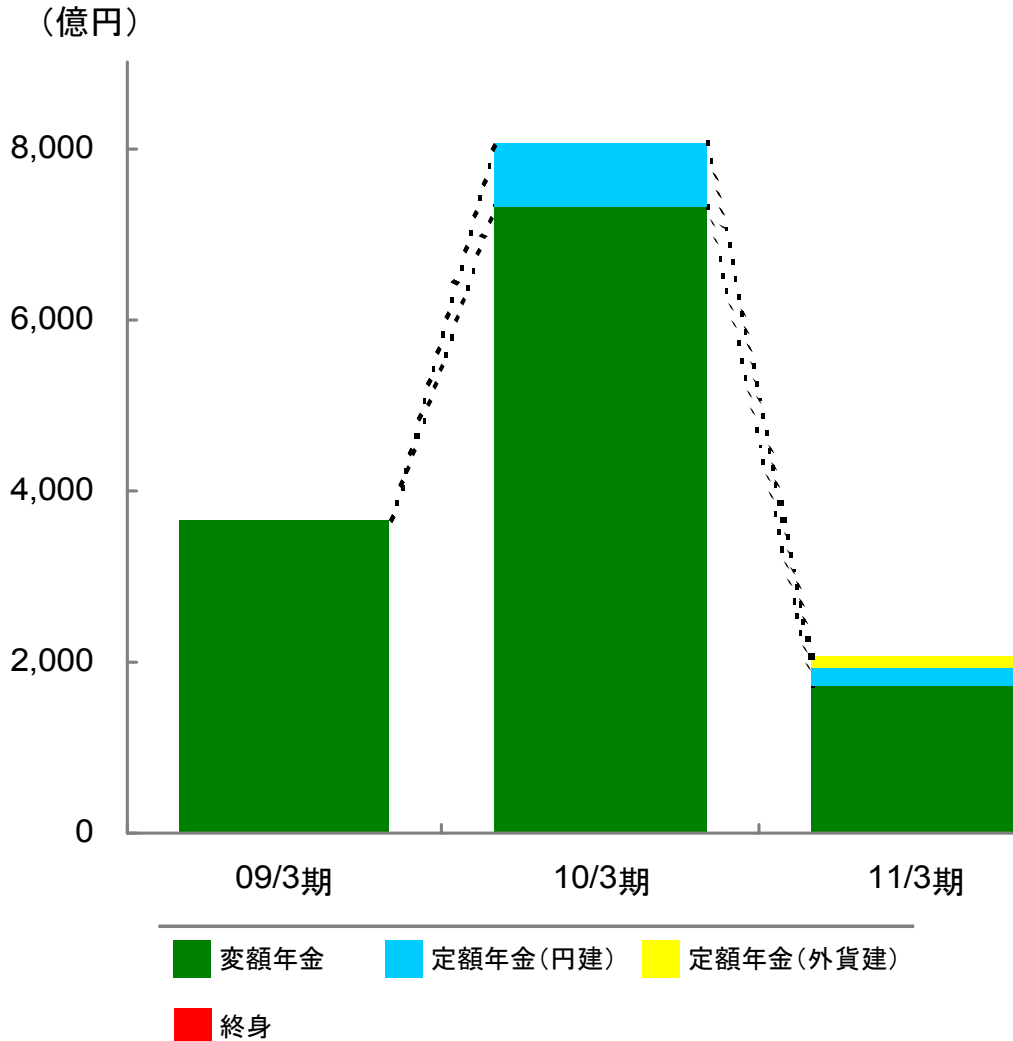
〈参考〉 2012年3月期末より導入される新基準に基づくソルベンシー・マージン比率: 547.7%

(1) 第一生命単体ベース

第一生命

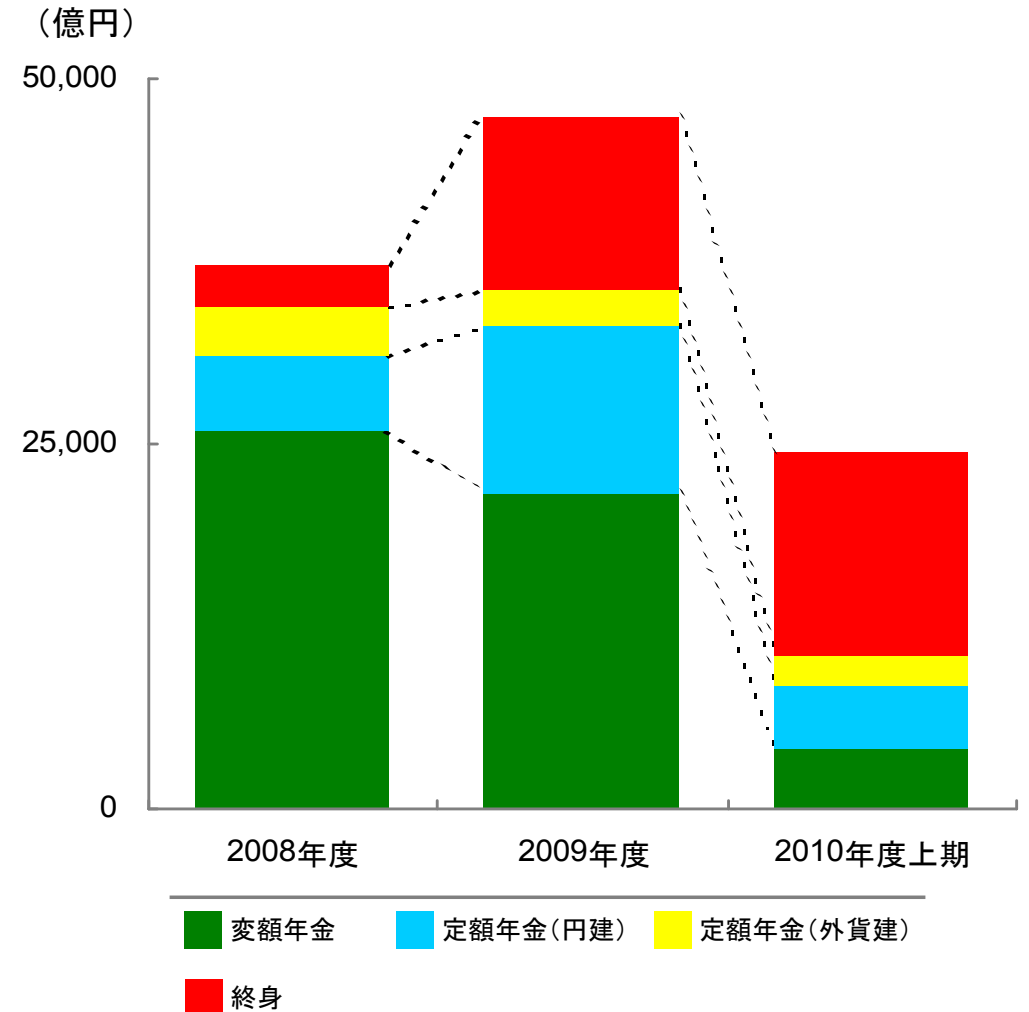
第一フロンティア生命①

新契約の商品タイプ別内訳⁽¹⁾



(1) 保険料ベース

参考：銀行窓販の動向(一時払商品)⁽¹⁾

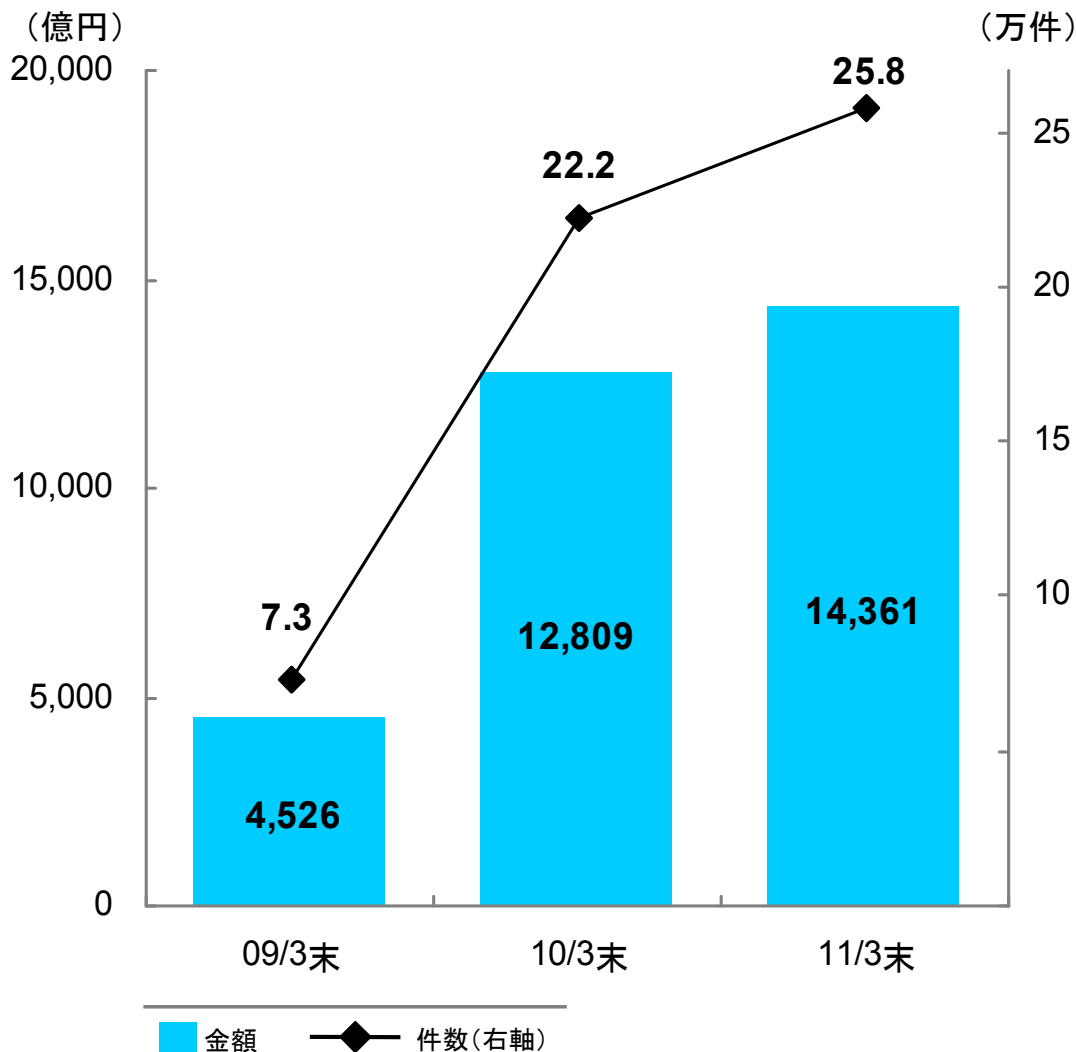


根拠資料：保険毎日新聞、ニッポン、日本経済新聞より当社作成

第一生命

第一フロンティア生命②

保有契約高



収支の状況

	(億円)	
	10/3期	11/3期
経常収益	9,613	2,538
うち保険料等収入	8,632	2,517
うち変額商品	7,324	1,742
うち定額商品	721	323
うち資産運用収益	979	21
経常費用	9,696	2,550
うち責任準備金等繰入額	8,640	1,427
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(A)	△ 369	201
うち危険準備金繰入額(B)	404	△ 83
うち資産運用費用	162	159
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(C)	158	71
経常利益(△は損失)	△ 83	△ 11
当期純利益(△は損失)	△ 83	△ 9
当期純利益+(A)+(B)+(C)	110	180

第一生命

海外事業

社名	11/3期 ⁽¹⁾ 保険料収入実績 ⁽²⁾		備考
		前期比	
第一生命ベトナム (100%子会社、07年1月買収)	9,947億ドン (41億円)	+33.7%	マーケットシェア 5.0%→5.7%→6.3%→7.2% (07年) (08年) (09年) (10年)
オーシャンライフ(タイ) (出資比率24%、08年7月出資)	11,608百万バーツ (313億円)	+8.1%	
スター・ユニオン・第一ライフ (インド) (出資比率26%、09年2月開業)	7,279百万ルピー (133億円)	(3) -	新契約保険料 民間生保22社中11位 (10年4月～11年3月累計)
タワー・オーストラリア (08年29.7%出資→ 11年5月100%子会社化)	942百万豪ドル (767億円)	+27.5%	

(1) 対応する期間は、タワー・オーストラリアが10～9月、それ以外の3社は1～12月

(2) 為替は、1ドン=0.0042円、1バーツ=2.7円、1ルピー=1.84円、1豪ドル=81.45円で換算

(3) スター・ユニオン・第一ライフは、09年2月の開業後初めての12ヶ月決算となる為、前期比は表示していない

第一生命

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー

■ 有価証券の含み益の減少等により、前期末比3,960億円減少し、2兆4,403億円

第一生命グループのEEV

			(億円)	<参考>		
			10/3末	11/3末	増減	10/9末
EEV			28,363	24,403	△3,960	21,423
	修正純資産 ⁽¹⁾		18,214	14,542	△3,672	20,516
	保有契約価値 ⁽¹⁾		10,148	9,860	△288	907

			10/3期	11/3期	増減
新契約価値			1,189	1,581	+391

第一生命単体のEEV

			10/3末	11/3末	増減
EEV			28,680	24,796	△3,884
	修正純資産		18,809	15,187	△3,621
	保有契約価値		9,871	9,609	△262

			10/3期	11/3期	増減
新契約価値			1,356	1,585	+228

第一フロンティア生命のEEV

			10/3末	11/3末	増減
EEV			1,463	1,378	△84
	修正純資産 ⁽¹⁾		1,155	1,099	△56
	保有契約価値 ⁽¹⁾		307	279	△28

			10/3期	11/3期	増減
新契約価値			△185	△4	+180

(1) 第一フロンティア生命は、新契約の初期コストの未回収リスクの軽減を目的として、修正共同保険式再保険等の再保険を活用していますが、当該再保険に係る調整を2011年3月期より行っています。本調整は修正共同保険式再保険等に係る将来の償却コスト相当額を保有契約価値から修正純資産へ振替えたものであり、EEVの総額には影響しません(第一フロンティア生命の修正純資産への影響額は▲433億円、保有契約価値への影響額は433億円です。グループベースでの影響額は出資比率に応じ、90.0%となります)。10/3末についても、新基準で計算し直した比較可能なベースで掲載しています。

第一生命

2012年3月期業績予想

- 第一生命単体の保険料等収入は減少を予想する一方、保険収支・運用収支の改善等により、連結当期純利益370億円を見込む

(億円)

	11/3期	12/3期(予)	増減
日経平均株価	9,852円 ⁽¹⁾	10,000円	+148円
為替レート(ドル)	83.1円	83.0円	△0.1円
為替レート(ユーロ)	117.5円	117.0円	△0.5円
10年国債金利	1.25%	1.25%	±0.00%
経常収益	45,715	43,340	△2,375
第一生命単体	43,084	38,280	△4,804
第一フロンティア	2,538	4,210	+1,671
経常利益	811	1,680	+868
第一生命単体	789	1,780	+990
第一フロンティア	△11	△190	△178
当期純利益	191	370	+178
第一生命単体	169	320	+150
第一フロンティア ⁽²⁾	△8	△171	△162
1株当たり配当金	1,600円	1,600円	±0
(参考)			
基礎利益 (第一生命単体)	2,759	2,700程度	-

(1) 3月月中平均

(2) 持分考慮後

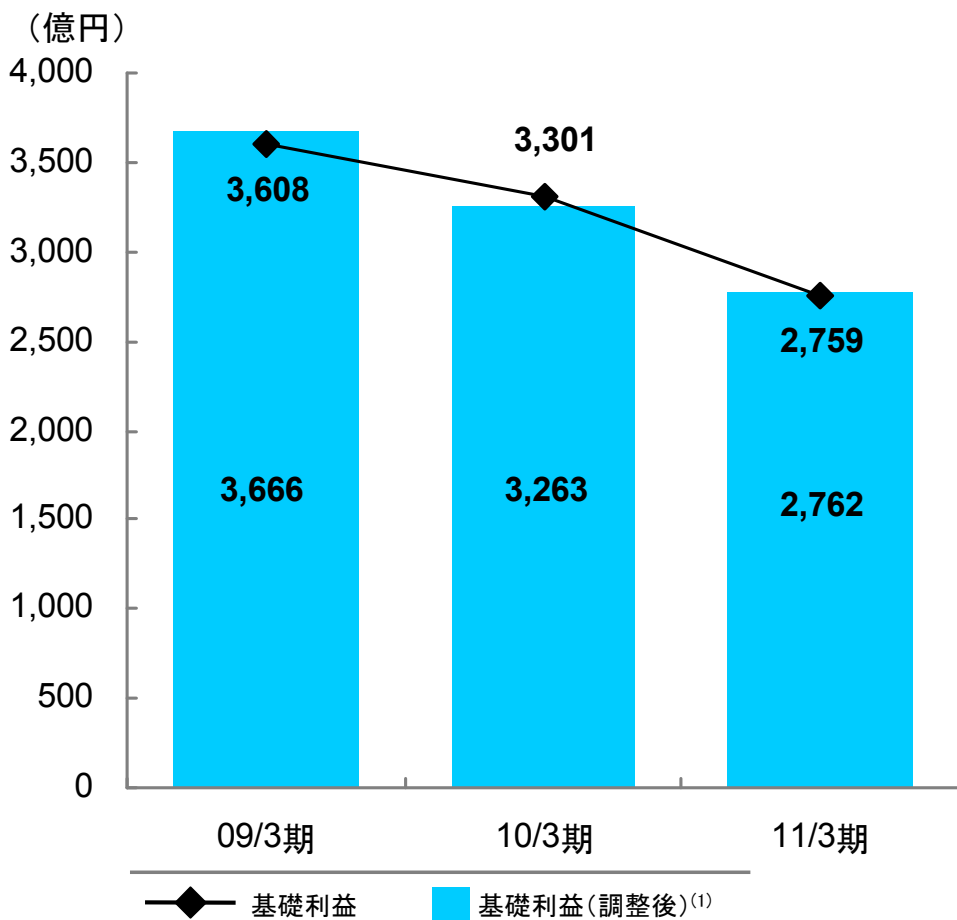
いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

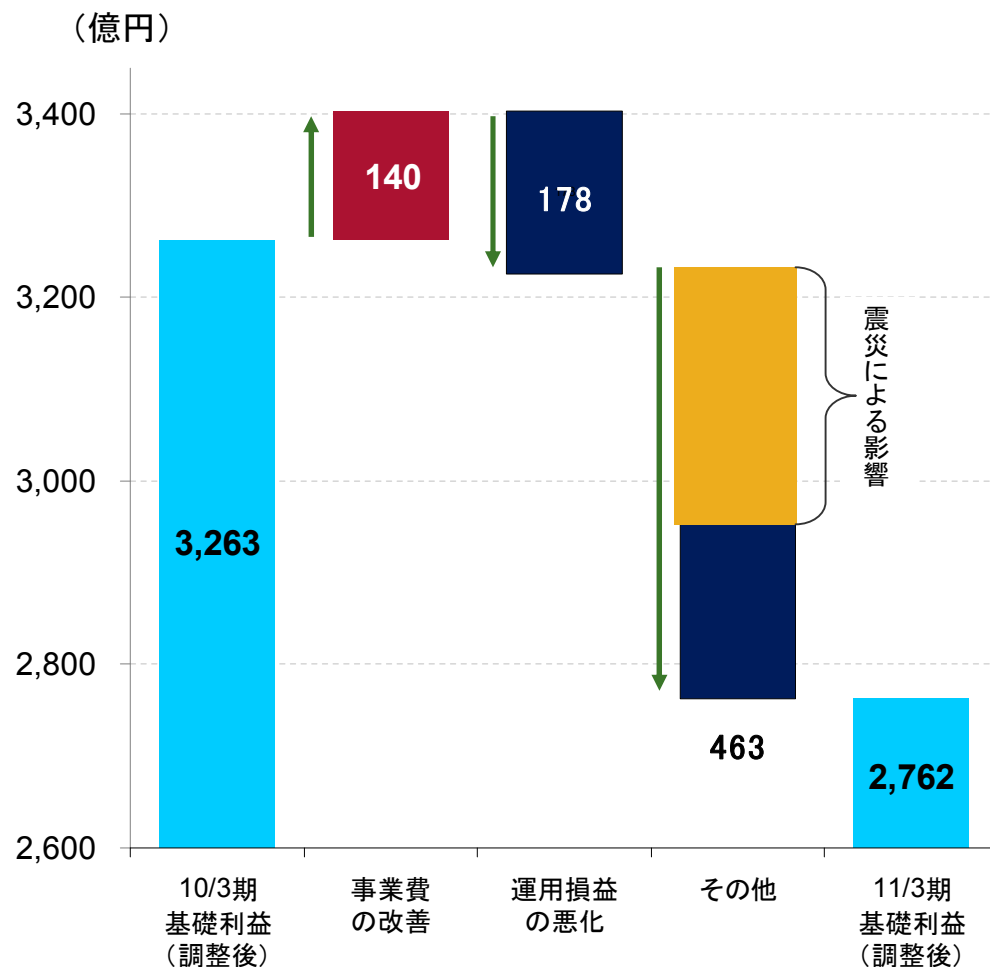
参考データ

第一生命(単体)基礎利益

基礎利益



基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

第一生命

第一生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	10/3期	11/3期	増減
経常収益	43,315	43,084	△230
保険料等収入	28,372	30,565	+2,193
資産運用収益	11,534	9,226	△2,307
うち利息・配当金等収入	7,080	6,981	△99
うち有価証券売却益	2,425	2,122	△303
うち金融派生商品収益	-	98	+98
うち特別勘定資産運用益	1,931	-	△1,931
その他経常収益	3,408	3,292	△116
経常費用	41,379	42,295	+916
うち保険金等支払金	26,105	26,250	+144
うち責任準備金等繰入額	3,282	3,225	△56
うち資産運用費用	3,300	4,295	+995
うち有価証券売却損	2,078	1,209	△869
うち有価証券評価損	105	1,796	+1,691
うち特別勘定資産運用損	-	320	+320
うち事業費	4,387	4,246	△140
経常利益	1,936	789	△1,147
特別損益 ⁽¹⁾	△236	282	+519
契約者配当準備金繰入額 ⁽¹⁾	925	785	△140
税引前当期純利益 ⁽²⁾	774	286	△487
法人税等合計	166	117	△48
当期純利益 ⁽²⁾	608	169	△438

貸借対照表(要約)

(億円)

	10/4始	11/3末	増減
資産の部合計	308,224	308,696	+471
うち現預金・コール	3,976	4,671	+695
うち買入金銭債権	2,898	2,911	+12
うち有価証券	239,879	242,945	+3,066
うち貸付金	38,343	36,274	△2,069
うち有形固定資産	12,436	12,958	+522
うち繰延税金資産	3,376	4,751	+1,375
負債の部合計	298,221	301,032	+2,810
うち保険契約準備金	278,962	281,908	+2,946
うち責任準備金	273,248	275,895	+2,646
うち危険準備金	5,270	5,020	△250
うち退職給付引当金	4,096	4,183	+86
うち価格変動準備金	1,154	804	△350
純資産の部合計	10,003	7,664	△2,338
うち株主資本合計	6,046	5,928	△118
うち評価・換算差額等合計	3,956	1,736	△2,219
うちその他有価証券評価差額金	4,611	2,375	△2,235
うち土地再評価差額金	△635	△651	△16

(1) 10/3期の特別損失には契約者配当引当金繰入額925億円が含まれていますが、本表では当該金額を契約者配当準備金繰入額に記載し、特別損益からは除いています。

(2) 第一生命は10/3期において相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しています。

第一生命

第一フロンティア生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)

(億円)

	10/3期	11/3期	増減
経常収益	9,613	2,538	△7,074
うち保険料等収入	8,632	2,517	△6,115
うち資産運用収益	979	21	△958
経常費用	9,696	2,550	△7,145
うち保険金等支払金	455	850	+394
うち責任準備金等繰入額	8,640	1,427	△7,213
うち資産運用費用	162	159	△2
うち事業費	386	104	△281
経常損益	△83	△11	+71
特別損益	△0	2	+2
税引前当期純損益	△83	△9	+74
法人税等合計	0	0	+0
当期純損益	△83	△9	+74

貸借対照表(要約)

(億円)

	10/3末	11/3末	増減
資産の部合計	14,231	15,667	+1,436
うち現預金・コール	300	239	△60
うち有価証券	13,135	14,554	+1,419
負債の部合計	13,057	14,500	+1,443
うち保険契約準備金	13,002	14,430	+1,427
うち責任準備金	12,996	14,419	+1,423
うち危険準備金	447	364	△83
純資産の部合計	1,174	1,167	△6
うち株主資本合計	1,162	1,153	△9
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△687	△696	△9

第一生命

金融市場への感応度(2011年3月末)

	感応度 ⁽¹⁾⁽²⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾⁽³⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,200億円(2,700億円)の増減	日経平均株価 ¥8,400 (¥8,700)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,600億円(1,500億円)の増減	10年国債利回り 1.5% (1.6%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 200億円(180億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥87 (¥95)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度。

(2) ()の数値は2010年3月末の水準。

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準。

第一生命

東日本大震災への対応

生保協会としての主な取組み

3月	11日	大地震対策本部を設置
	12日	-保険料払込猶予期間を最長6ヶ月間延長 -保険金・給付金、契約者貸付の簡易迅速なお支払い
	14日	見舞金3億円の寄贈を決定
	15日	全生命保険会社が地震による免責条項等の不適用を決定
4月	1日	災害地域生保契約照会制度 ⁽¹⁾ を開始
	13日	会員会社への警察公表情報のデータ配信
	19日	-会員会社間での被保険者死亡情報の共有化 -戸籍情報の開示に関する要望の実現
	22日	住民票情報の開示に関する要望の実現
	27日	-保険料払込猶予期間を更に3ヶ月間延長(最長で平成23年12月末までの延長) -猶予した保険料の払込期日に関する特別取扱い

第一生命としての主な取組み

3月	11日	災害対策本部を設置
	12日	-保険料払込猶予期間を最長6ヶ月間延長 -保険金・給付金・契約者貸付等の簡易迅速なお支払い -災害関係特約について保険金等の全額お支払い -物的支援として、支援物資(水・食料など)の発送開始
	14日	人的支援として、応援チームの派遣開始(常時、数名を派遣)
	15日	義援金の寄贈(1億円)
	16日	新規契約者貸付に対する特別金利の適用
	25日	社長の渡邊が被災地を訪問(岩手・宮城・福島、~29日)
	27日	-平日・土曜に加え、日曜・祝日の9時~17時もコールセンターを開設。さらに、4月8日以降、震災専用ダイヤルを開設
4月	30日	-みなし入院の取扱 -払込猶予期間の自動延長
	8日~	被災地の契約について、お見舞い状58万通を発信
	13日	-宮城県石巻市・気仙沼市、岩手県宮古市等で、臨時窓口を設置(13日以降、随時) -被災地の契約について、アウトバウンドコール開始
	25日	日本経団連の被災地ボランティア派遣に参加開始(各クール数名ずつ)
5月	7~8日	Google検索等によるお客さま安否確認を実施(のべ400名体制)
	16日~(予定)	避難所など連絡のとりづらいお客さまに関しても安否確認を実施するために、数十名規模の応援要員を継続的に派遣(岩手・宮城・福島)

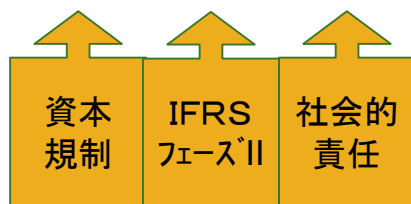
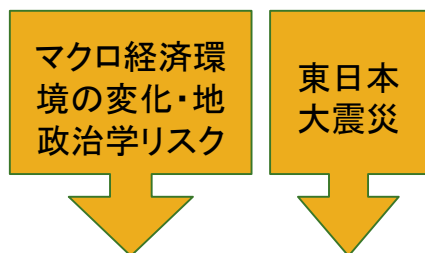
(1) 災害地域生保契約照会制度とは、加入していた生命保険会社が分からず保険金の請求を行うことが困難な場合において、生命保険協会から各生命保険会社に契約有無の調査依頼を行う制度

第一生命

参考データ

2011-12年度中期経営計画

2009/3期	2010/3期	2011/3期
Value up 2010		
成長への基盤固めと上場の完遂		
成長戦略	品質保証と生産性向上による成長への基盤固め	
資本政策	強固な財務基盤の確立及び資本効率の向上	
ガバナンス	公開会社としての内部管理体制確立	
CSR	「人財」が成長を支える態勢の確立	



2012/3期	2013/3期 創業110周年
サクセス110!!	
グループ総力を結集した復興と成長の実現	
復興・再生	保障機能の全面発揮と復興・再生
成長戦略	成長に向けた事業展開の加速
資本政策	財務基盤の強化、成長戦略を支える規律ある資本政策の遂行
ガバナンス	本格的な連結経営に向けた体制の完成
経営品質／CSR	DSR経営の推進による企業価値の向上

第一生命

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「第一生命」または「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。